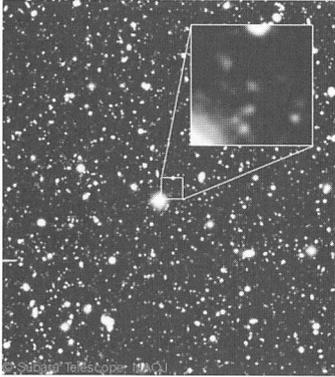




5月30日までのプログラム

プラネタリウム

宇宙の果てはどんなところ?



すばる望遠鏡が観測した最遠の銀河(国立天文台 提供)

宇宙の果てはどうなっているのか? 誰もが一度は疑問に思ったことがあるのではないでしょう。はるか遠くの宇宙はいったいどのような姿をしているのか、人々は望遠鏡を使って調べてきました。大きな望遠鏡を使えば、それだけ遠くの、暗い星まで見えるようになります。そのため時代とともに、より大きな望遠鏡が作られてきました。現在日本で一番大きな望遠鏡は、国立天文台のすばる望遠鏡です。すばる望遠鏡は、光を集める鏡の大きさが8.2mもあります。

望遠鏡を使うことで、この宇宙がどのような姿をしているのかが分かってきました。肉眼で見える星たちは、実は私たちがごく近くにある星に過ぎません。夜空に見える星たちは、およそ2000億もの星の集まりである天の川銀河と呼ばれる星の大集団のほんの一部なのです。

しかしさらにその先の宇宙にも、天の川銀河と同じような銀河が多数存在しています。宇宙はこうした銀河がどこまでも続いていることが分かってきました。現在、私たちが知っている最も遠い銀河は、すばる望遠鏡が2006年に発見した銀河で、その光は128.8億年もかかって地球まで届きました(現在の距離にして287億光年)。

では、さらにその先はどうなっているのでしょうか?

今回のプラネタリウムでは、最新の天文学が明らかにした、遠い宇宙にはどのような天体があるのか、宇宙の果ての謎に迫っていきます。

企画・制作:江越 航(科学館学芸員)

サイエンスショー

電池のヒミツ

環境に対する私達人類の負荷が、問題になっている昨今、電池の活躍、そして改良・改善が以前にもまして重要になっています。家の屋根に取り付けられた太陽電池パネル、また、家庭用電源などとして開発が急ピッチで進められている燃料電池。車についても、充電車を積み込んで、コンセントから充電できる車もできています。現在は、たくさんの種類の電池があります。電池と名のつくもの、欲しい